

## 令和元年度東北ブロック DMAT 参集訓練(新潟)に参加しました (2019/11/2-3)

テーマ：DMAT、参集訓練、医療ニーズ把握  
 場所：新潟市民病院（新潟県新潟市）

2019年11月2日（土）～3日（日）、新潟県において令和元年度東北ブロック DMAT 参集訓練が実施され、佐々木宏之 准教授（災害医学研究部門 災害医療国際協力学分野）が東北大学病院（以下、当院）DMAT として訓練に参加しました。この訓練は東北7県が持ち回りで年に一回実施する訓練で、実施主体県に大規模災害が発生した場合を想定し、他の東北ブロック6県から派遣される DMAT の参集、分配、本部・現場活動などをブラインドで実施する実地訓練です。今年度は新潟県沖を震源とする M8.0 クラスの地震が発生し新潟県内に大きな被害が発生した、との想定で訓練が実施されました。両日合わせ東北7県から約300名の DMAT 隊員がプレーヤーとして訓練に参加しました。

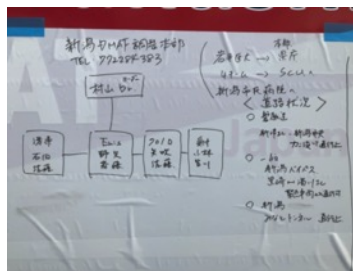
大規模災害が発生すると DMAT は陸路（原則）で指定された参集拠点本部に参集し、そこから指定された活動場所に向けて自力で移動します。今回、宮城、岩手、福島県 DMAT には磐越自動車道阿賀野川 SA（下り）が参集拠点として指定され、2日（土）早朝に当院 DMAT は阿賀野川 SA に到着しました。現地では、これも訓練プレーヤーである会津中央病院チームが同院車両を用いて参集拠点本部を立ち上げており、参集した各 DMAT に活動場所を指示、派遣していました。当院 DMAT は新潟医療圏 DMAT 活動拠点本部のある新潟市民病院への移動を指示され、本部に掲載された想定通行止め箇所の道路・トンネルを避け、一般道を迂回して新潟市民病院に到達しました。

新潟市民病院内の活動拠点本部において当院は最先着隊だったため、同本部長を務めていた日本海総合病院（山形）統括 DMAT より本部内での活動を指示され、佐々木准教授らは EMIS（広域災害救急医療情報システム）を用いて医療ニーズ調査を開始しました。EMIS 想定上、新潟医療圏内で多くの病院のライフラインが途絶し、搬送希望「赤」患者が700名にもものぼっていました。実災害においても「搬送」はボトルネックになるため、病院避難など大口の搬送が実施されなくてもすむよう、佐々木准教授らは物資ニーズ調査および手配もあわせて実施しました。

令和2年度東北ブロック DMAT 参集訓練は宮城県で開催されます。来年度の訓練開催に向け、一年をかけて宮城 DMAT は準備を進めていきます。



阿賀野川 SA 参集拠点本部



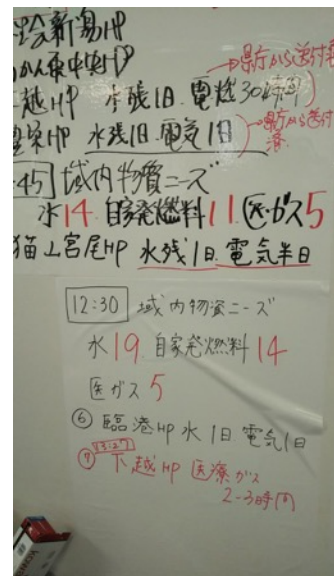
情報はまだ集まっていない



活動拠点本部で情報収集を指揮する佐々木准教授



新潟医療圏 DMAT 活動拠点本部メンバー



各病院の人的・物的支援ニーズは刻一刻と変わる